

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370500599
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた
事業所名	グループホーム キトさん家
訪問調査日	平成 20 年 3月 28日
評価確定日	平成 20 年 4月 8日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家 族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370500599		
法人名	特定非営利活動法人 NPOみなまた		
事業所名	グループホーム キトさん家		
所在地	水俣市丸島町1丁目11番6号 (電話) 0966 - 68 - 9881		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号402号		
訪問調査日	平成 20年 3月 28日	評価確定日	平成20年 4月 8日

【情報提供票より】(平成20年 3月 3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 1月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 6000 円
敷金	有 (50,000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/ 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 食費に含む
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(平成20年 3月 3日現在)

利用者人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87 歳	最低 75 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水俣協立病院、伊藤歯科医院、白梅病院、水俣協立クリニック、白梅荘
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家が密集する地域に、名前の由来となっている「キトさん」宅を改築し民家改修型としてのホームを運営している。そのため地域との密接な関係も継続され、地域の人に支えられた典型的な地域密着型ホームとなっている。少人数のため一人ひとりと深くかかわることができ、潜在能力や個性を引き出す支援が行なわれている。地域の協力を得ながら、GPS機能付きの携帯電話を装着してもらい自由な外出を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	生活空間づくりに関して、テレビの音量に配慮し、見ない時は消すように心がけた。ケアプランについては評価等の様式を変え、一人ひとりの状況を把握しやすいように改善した。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員には自己評価の意義や目的を伝えている。今回は管理者と計画作成担当者が自己評価に取り組み、完成させた内容をミーティングで職員と話しあっている。今後は一人ひとりの職員が取り組み、自らの課題を見出す姿勢も望まれる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではホームから入居者の状況・行事等の報告をし、意見交換が活発に行なわれている。意見の中で災害時の対応があげられ、近隣にも協力を働きかけ、「キトさん家、防災・緊急支援連絡網」を作成するなど、有意義な意見を活かしたホームの運営がなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関ホールに苦情受付のポスターを掲示し、家族と職員間の関係構築に努力している。家族からの意見等は申し送りノートに記入し、ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しているため地域の中の一員として役割も担っている。また、入居者の個性を尊重するための働きかけを運営推進会議を通じて行ったり、防災・緊急支援連絡網の通報訓練を実施するなど「地域の人と一緒に」という理念の実践が行なわれている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(<input type="checkbox"/>) E/F)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より地域の中で地域に支えられたホームであることを意識したものになっており、職員の思いを込めた理念を玄関に掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月のミーティングで周知徹底を図っている。日々の生活の中で、その人らしく個性を引き出すケアに努めている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し区役や当番など、地域の中の一員として役割を果たしている。また散歩や買物時の挨拶やホーム行事を行なう時は、近所の方にも参加してもらうなど、地域との交流も活発である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価の意義・目的は職員に伝え、ミーティングで話し合っている。		職員による自己評価は、事業計画の中にも位置付け計画的に全職員で取り組まれることが望まれます。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月ごとに開催され、入居者の状況説明や行事報告、災害時対応等について活発な意見交換が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(FPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	連絡協議会の中の部会が定期的開催され、市職員と関係づくりは構築されており、問題解決のためアドバイスを受けたり意見交換を行なっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月お便りを送付し、面会時や電話でも心身の状況報告を行なっている。金銭管理については、面会時に出納帳と領収書の報告をし、了承のサインをもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見は申し送りノートで職員に伝え、ミーティングで改善策を協議し、改善に努めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の個別面談は必要に応じて実施し、離職に至らぬよう努めている。新任と離職者は1ヶ月重複した勤務で引継ぎを行い入居者へのダメージを防ぐよう、また法人内の異動は最小限に抑えるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は希望者及び経験年数に応じ参加し、ミーティングで報告している。全員参加の法人内研修・救急救命対応の研修は定期的に行なわれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの研修に加えブロックの勉強会で、意見交換や職員間の交流を行いサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(FPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学や体験入居に対応し、家族の協力(泊まり)を得ながら馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	入居者のできる事・得意分野を把握し、発揮できるように支援している。入居者と職員が家族として支えあう関係が構築されている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々の暮らしの中での対話や表情から入居者の希望や意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	家族や入居者の意向をもとにミーティングで話し合い、現状を踏まえながら計画作成担当者が作成している。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	半年ごとに定期的な見直しを行なっている。毎月、担当職員によるモニタリングと計画作成担当者からの評価を行い、状況に応じ計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(FPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や入居者の状態に応じ通院等の支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医に受診や通院の支援を行なっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としては「急性期・重度化・終末期ケア対応指針」のたたき台は作成しているが、家族への説明までには至っていない。		家族への説明や協力を求めるための努力が望まれます。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中ではプライバシーに配慮した言葉かけを心がけている。記録や申し送り時の声の大きさにも留意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事のペース等、入居者のペースを大切に一人ひとりの気持ちを尊重した支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(FPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
k					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の希望を聞きながら食事担当がその日の食材でメニューを決めている。調理から片付けまで入居者の能力に応じ一緒に行なっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日沸かし、ゆっくり入浴できるよう支援している。入浴拒否の方には無理強いせず、タイミングや声かけに配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴を把握し得意分野で力を発揮できるような場面づくりを行なっている。趣味を活かした楽しみ事の支援や散歩・ドライブ・外気浴で気晴らしの支援を行なっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・外気浴等、一人ひとりの希望にそった支援を行なっている。草取りや外出が好きな入居者はGPS付き携帯電話を身に付け、自由に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず自由に出入りできる。入居者が出かける際にも安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼想定の方の非難訓練は入居者も参加し、夜想定は近所の方が参加した通報訓練を行なっている。運営推進会議を通じて「キトさん家、防災・緊急支援連絡網」を作成し、地区の消防団長の協力も得られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(F1)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を記録、入居者の状態に応じとろみやミキサー食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では思い思いに過ごせるスペースにソファ等が配置してある。玄関や洗面台等には季節の花を飾ったり、昔ながらインテリアを配置して家庭的な雰囲気となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳の居室に家具やテレビ・仏壇を持ち込み心地よく過ごせる環境が整っている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	NPOみなまた グループホーム キトさん家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県水俣市
記入者名 (管理者)	吉野 麻美 柏木 敦子
記入日	平成20年3月3日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住宅密集地に設立、民家改造型のグループホームである。住宅提供者のキトさんがこの地に嫁いでから、約70年も暮らし続けた家であり、地域住民との結びつきは深い。隣保班にも入らせていただき、キトさんが築いてこられた、ご近所との関係を入居者と共に、受け継ぐことを日常的な課題としている。NPOみなまたの理念として、地域とともに・・・は介護保険制度の前から、設理念として掲げている。地域に愛され、支えられ、地域と共に生きる、暮らすの実現に日々努力している。</p>	<p>ご近所の方との普段のお付き合いを大切にしている。隣保班にも入らせていただき、日常の挨拶をはじめ、回覧板、市報の配布など、他ゴミ収集、公役等にも地域住民として役割を普通に果たしていると思う。入居者の方にとって、これまで営んで来られた、地域住民としての普通の暮らしの継続を支援している。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>開設時に職員それぞれの想いを寄せ、設立の理念を作り、玄関に掲げている。ケアプラン作成において、理念の実現を中心に据え、職員皆で日常のケアにおいて、努力すると共に、ミーティングにおいて、ケアの振り返りを行なう時は、理念に立ち返ることを基本としている。</p>	<p>月に1回、職員が一同に会す、定例ミーティングは職員一人一人が理念を再認識、原点に立ち返る場として重要視している。理念(原点)に立った、ケアの振り返りを行なう、定例ミーティングの中身を充実する努力をしていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念はご近所の方や御家族の方が面会に来られた時に目に触れるよう、玄関に掲示してある。日々の実践は、「お便り」の発信や、いつでも気軽に立ち寄って、入居者の方の暮らしを感じ取れるよう、このことを通しても理念を理解していただけるのではないかと考える。</p>	<p>NPOみなまたの機関誌を2ヶ月に1回、定期的に発行し、御家族の方や地域、隣保班に配布し、事業所の実践を伝えている。19年度からは、キトさん家で「お便り」を発行、入居者の方、お一人お一人の暮らしぶりを写真に載せ紹介している。それぞれの御家族に郵送し大変喜んでいただいている。今後とも継続していきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩や買い物の途中、近所の方と挨拶を交わしたり、お話することがある。おやつのおすそ分けをいただいたり、気軽にお茶によっていただくこともある。夏にはご近所へのお返しと銘うって、キトさん家の庭で、焼き鳥、花火の夕べを行ない、御家族、ご近所の方が大勢参加され、大変喜んでいただいた。</p>	<p>運営推進会議のメンバーにご近所の方も入っていただき、地域で暮らすことへのアドバイスをいただいている。気軽に声を掛けていただき、立ち寄れる雰囲気常にもつことを心がけたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入し、班にも入っている。月番、区役やりサイクル当番も引き受けている。</p>	<p>地域での神社の祭り、公民館での講演、防災訓練等々地域での行事には入居者の方と共に積極的に参加していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年は認知症を理解していただくための講演会で、ケアの基本をテーマとして、グループホームの実践を発表した。		地域住民の方に対しても、認知症ケアの啓蒙に勤めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全員に伝え、全員で自己評価に取り組み質の向上に努めている。		自己評価、外部評価結果についてミーティングで報告、協議し改善計画を具体的に立て、その実践に向け取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所からの報告後、会議メンバーの方からの意見・要望をいただくようにしている。明らかになった課題に着いては次の会議までに報告できるように努めている。		運営推進会議では防災に関しての関心が高く、キトさん家防災、緊急支援連絡体制をご近所、御家族の協力を得て作成することが出来た。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には必ず水保市、介護保険課からの参加があり、行政とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		運営推進会議は行政の方に介護現場の実情を見ていただく良い機会であり、共にサービスの質の向上に取り組んでいきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	左記の制度についての勉強会はまだ開催していないが、ケアマネの研修会で学ぶ機会があった。現在その制度を必要とする対象者はいないが、対象が出てきたならば、その制度を活用できるようにしたい。		権利擁護概念を正しくとらえると共に、権利擁護についての勉強会を行い、必要とする対象者に活用できるようにしていきたい。又、無意識のうちに権利侵害が行なわれていないか、日常の一つ一つの場面で点検していく必要がある。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての独自の勉強会は今年度は行っていない。		虐待(身体拘束)は理念以前、人間として許されない犯罪であり、どのような状況下であっても絶対に許されないことを今後、勉強会、事例検討の中で職員に周知徹底したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をとり丁寧に説明するよう努めている。特に、利用料金、起こりうるリスク、個人情報保護、医療連携体制の実際については詳しく説明し、同意を得るようにしている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者の方の表情・言葉・怠惰尾からその想いに近づけるよう、努めている。</p>	<p>運営推進会議には入居者の方も参加していただき、入居者の方の想いを外部の方に直接伝える機会を設定している。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>常時、来訪時に直接、または電話で、定期的には「お便り」で御家族の方との情報交換を行なっている。特に、健康に関することでは、密に状況を説明し、変化する状態を理解していただけるように努めている。</p>	<p>一月に一回、定期的に「お便り」を発行、暮らしぶりやエピソードを伝えている。金銭管理は出納長と領収書綴りで管理し、御家族来訪時に了承のサインをいただくようにしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関ホールにケアに関する苦情受付のポスターを掲示。御家族の方が苦情並びに意見を出しやすい雰囲気を作っている。担当者会議や運営推進会議での意見は早急に職員に伝え、又、ミーティングで協議し、改善に努めている。</p>	<p>御家族の方が率直にご不満やご意見を言い易いような信頼関係を日常的に作っていくことが必要と考える。問題解決は速やかに行い、サービスの向上に活かして行きたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティング、個別面談等で職員の意見、提案を聞き、ケアの向上、又、働き安い職場の改善につなげている。</p>	<p>今後も職員の要望や意見を聞く機会を作り、働く意欲の向上やケアの質の向上につなげていきたい。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>定期的ミーティング、臨時のミーティングを状況に応じて開き、体制の強化、勤務時間の調整、工夫等を検討するなどの対策をとっている。介護保険上の人員配置より、上回る体制を確保している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には馴染みの職員によるケアが認知症の方にとって、大切なことであることを十分認識している。</p>	<p>離職は個人的な理由と共に、待遇、その他、人間関係が理由となることもあり、個別面談を随時、必要に応じて行っており、個々の職員の問題には常に目を向け、配慮している。一事業所で解決できないことはNPOみなまたの事務局会で取り上げ、解決の方向で協議するシステムをとっている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自の取り組みは行っていない。定例の水俣、芦北のグループホームの勉強会には参加し、対応困難事例の検討を行なっている。参加者はミーティングで学んだことを報告し、共有するようにしている。他、市内、県内外での研修には勤務を調整し、参加できる機会を作っている。		NPO水俣として、介護職員に対する制度教育は19年度に始まったばかりである。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記のグループホームどうしの勉強会「ブロック会」に参加している。他のグループホームの見学、研修等も積極的に受け入れている。		今年度は主任研修として、八代のグループホームへの一日研修、ケアマネ委員会では記録について、他のグループホームと交流し、多くの学びを得た。今後もグループホーム間の交流が必要であり、それは職員の成長につながると考える。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩時間はゆっくり休めるよう、事務室(パソコン室)を確保。日常的に職員の心身の健康面には把握するように努めている。個人面談も随時行っており、勤務表作成においても、配慮するようにしている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	就業規則により職員の労働条件は整備されている。育児休暇制度の実施、又、夜勤拘束時間の短縮など労働条件が改善された。引き続き、職員が向上心を持ち、やりがいのある職場にするには賃金、待遇面でさらなる改善、努力が大きな課題であると考え。		国の福祉政策に現場から働きかける運動を職員と共に進め、広げていくことが必須課題であると考え。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	認知症の方、御本人からの相談はこれまで受けたことはないが、御家族や居宅のケアマネからの相談は受けている。事情を親身になって伺うことから始めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの相談があった時は、必ず御本人また、その家族と面談するようにしている。住まいに訪問する場合もある。入居決定の場合は必ず、自宅訪問を行い、環境を博するようにしている。まず、利用に至る経過、両者の想いを受け止めるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の想い、状況を把握した上で必要とする支援が何なのかを見極め、場合によっては担当のケアマネを通して、他のサービス期間の紹介を行なっている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用の相談があった時は、御本人、御家族に見学を勧め、当ホームの雰囲気を見てもらっている。御本人にとって、いきなり、泊まるのではなく、何度か日中過ごしていただき、時には御家族と一緒に泊まっていたり、徐々に当ホームに馴染んでいただくようにしている。入居に伴うストレスを少しでも減らすようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者ご本人の喜怒哀楽等、感情の面を重視し、人間的な関心を寄せ、その方の心の部分、想いに近づくようにしている。ケアを一方的にしてあげるの関係でなく、互いに生活を共にする、支えあう関係作りを目標としている。		入居者の方の関心や好み、能力に合わせ、生活場面で多くの出番があり、能力が発揮できるようにしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの暮らしは御家族の支えなしには成り立たないとし、御家族とは日常的に密に連絡をとり、入居者の方を職員と共に支えあっている。		家族会の充実を今年度の努力目標としたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	上記と同じく、御家族にグループホームでの暮らし、状況を良く知っていただくことで、御家族との関係が疎遠にならないよう気をつけている。入居者の方が御家族を求めておられることをお伝えし、訪問や外出、外泊をお願いすることもある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の入居前の暮らしの継続をケアプランに掲げ、往きつけの美容院の利用や、友人宅の訪問、馴染みの店への買い物などを支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	テーブルの席、ソファの位置など等、入居者同士の関係を把握した上で、トラブルが起きないようにセッティングしている。一つの作業(洗濯物たたみ、新聞折、他)を皆で協力して行なう中で、互いに思いやり、支えあう関係が築いていけるのではないかと考える。お茶や食事の時間は職員も同席し、会話を楽しむ等、和やかな雰囲気を作り出している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院で入居契約が切れることはないが、職員がお見舞いに行くことで励ますと共に、職員との馴染みの関係が途切れないように配慮している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の対話や、表情などから暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		ご本人の言葉や、ご家族からの情報により、お一人お一人の思い等を把握していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご本人やご家族から情報を得るようにしている。(可能な時は入居前に聞き取り実施)入居後もプライバシーに配慮しながら、ご本人や、面会に来られた方々に聞き取るようにしている。		情報収集した内容については、不足している部分、聞き取りが不十分な方もいるので、さらなる情報収集が必要である。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の生活の中で、お一人お一人の現状を把握するようにしている。ミーティングで全職員は情報を共有している。		お一人お一人の生活リズム、出来る力をきちんと理解し、出来る事を日々の生活に取り入れ、その人らしい生活を送れるようにしたい。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思いをもとに、職員全員の意見等を反映したプラン作りに努めている。		ご本人やご家族が、思いを出せるように努め、ご本人らしさが出るような介護計画が作成できるようにしたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間終了前に見直しを行っているが、プラン作成が間に合わない事もある。月1回のモニタリングやミーティングなどで話し合い、状態に応じたプラン作りを行っている。		ご家族から要望を頂くだけでなく、利用者の方の生活を一緒に考え、検討していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態や、本人の言葉、職員の気づきは、ケアに関わった職員が個別のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、個別記録を基に各担当者が月の終わりにモニタリングし、介護計画の見直しへと活かしている。		日々の記録が、介護計画にそって記入できるように、またアセスメントやプランに活かせるような書式を検討したい。現在、記録検討委員会で書式の検討中である。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム単独の事業である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察、消防、自治会長、行政協力委員、民生委員の方々への協力を依頼している。運営推進会議の中でも関係者の方々との意見交換する場を設けている。		安全でよりよく暮らすために、地域の多様な資源を把握し、活用するようにしたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	グループホームにおいては、介護保険の利用がグループホームのみに限られる。介護保険外のサービスの利用例では御家族との話し合いで訪問マッサージをうけたことがある。訪問美容(ヘアカット)のサービスも受けている。他、社協から電動ベッド、シャワーチェアのリースも受けている。		グループホームにおける、介護保険サービスの枠を拡大し、地域のデイサービス等のサービスが受けれるようになれば、グループホームの密室性が解決され、入居者の方達の暮らしは開放的で、更に充実、普通の暮らしに近づくのではないかと考える。介護保険外で活用できるサービス、地域の資源を調査し、入居者のニーズに応じた活用を検討したい。水俣市花管理組合がグループホーム入居者の方の、草取り作業を受け入れている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に市の介護保険課の方が毎回参加され、様々な助言をいただいている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、御家族、本人のご希望に添って、かかりつけ医を決定している。かかりつけ医とは日常的に情報交換を行い、密に連携し、緊急時に対応してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の認知症専門医に認知症に関する様々な症状を相談している。夜間譫妄の方の事例では、症状の出現、頻度、レベルを細かく報告し、薬の微量調整を行なっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、非常勤のスタッフにも準看護師が1名おり、往診時の対応・受診介助・日常の健康管理を行なっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院は、異常の早期発見、早期受診、治療が要であり、身体面の変化を捉える、観察力が職員に求められる。入院時に介護サマリーを病院に提供している。入院後、医師の病状説明には家族とともに出席している。退院時もおなじであり、退院後の健康管理に生かしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	方針はあるが、まだ終末期を受け入れた事例はない。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	普段より、健康管理について、御家族や医療機関と密に連携を行なっている。現在の入居者のレベルでは、まだ、終末期についての支援等の協議は行っていない。		終末期の受け入れについては、御本人、御家族の想いを確認することから始め、主治医、グループホーム職員とともにチームで支援したいと考えている。終末期の介護に関する、知識が必要であり、学習を重ねながらの実践となると考える。夜間の体制や御本人、御家族、更に職員も含む、メンタル面でのサポートも必要になると考える。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他のグループホームへの住み替えはないが、逆の事例はある。事前訪問、文章等で詳細な情報をいただき、住み替えに伴う、ダメージ、ストレスをできるだけ軽減するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>敬語、丁寧語を使うよう心がけている。秘密保持に関しては、入職時、誓約書をとっている。また、記録に関しては、入居者の方の傍ではせず、申し送り等の声の大きさも気をつけている。</p>	<p>誇りやプライバシーを損ねるような声かけをしないように徹底し、日々の関わりを常に見直し、職員間でお互い注意しあえるようになりたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>お一人お一人に合わせた声かけを行い、いろいろな場面で本人が決めることができるように、複数の選択肢を提案したり、ボードを使用したりと工夫している。</p>	<p>お一人お一人が希望などを出せるような雰囲気を作り、自己決定できる場面が増えるようにしていきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>朝はゆっくりと起きたりと、お一人お一人の生活のペースを大切にしている。しかし、入浴時間など体制上や安全上できていないこともある。</p>	<p>お一人お一人の状態や気持ちを考慮しながら、できるだけ個別性のある支援を行っていきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人の昔からの好きな格好を大切に、本人主体で身だしなみを整えられるように配慮している。昔からの行きつけの美容院で希望に合わせたパーマやカットができるようにしている。また、訪問理美容を利用される方も、職員が決めるのではなく、ご本人の希望が聞き入れられるよう配慮している。</p>	<p>ご本人のこだわりを大切に、おしゃれやお化粧品を楽しんで頂けるよう支援したい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理、盛り付け、片付け等、お一人お一人の出来る事に合わせて、一緒に行っている。また、職員も入居者の方と同じテーブルで会話を交えながら食事するようにしている。</p>	<p>その日のメニューを利用者と相談しながら決めるようにしたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>現在はお酒やタバコを楽しまれる方はいないが、以前タバコをのむ習慣のあった方へは、本人の希望時、他入居者の迷惑にならない場所でゆっくり吸えるようにしていた。</p>	<p>お一人お一人の嗜好品の把握に努め、他入居者への影響を考慮しつつ、好みのものを楽しめるよう支援していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自ら意思を伝えることが困難な方は、排泄チェック表を使用し、お一人お一人に応じた誘導方法で、トイレでの排泄を促している。また、さりげない介助を心がけている。		排泄の援助では、さりげなく、細心の配慮をもって行っていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は午後に行っている。入浴を拒む方には、言葉かけの工夫等を行っている。お一人お一人ゆっくと入浴していただけるようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者の方の状況に合わせて、落ち着かれる場所で休息がとれるように配慮している。これまでの習慣や現在のADL等考慮し、ご家族とも話し合い、布団やベッド使用など決めている。寝付けられない方へは添い寝などし、安心されるまで傍で対応している。また、日中の活動量なども職員間で常に話し合いが行われている。		生活記録をもとに、医師や家族と話し合いをしながら、薬剤等については調整している。見直しを随時行っている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前の生活歴や、ご本人、ご家族からの情報からお一人お一人の個性、能力、好みを知り、その方の得意分野で力が発揮できるような場面をつくるようにしている。また、外出や地域への行事などへも楽しみながら参加できるようにしている。		お一人お一人の楽しみや、気晴らしの支援ができるようにしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理がある程度できる方は、家族の了解のもと少額の現金を持っている。自分の好きなものを買われる場合は、職員はさりげなく見守り、必要に応じアドバイスしている。		お金を所持することでの安心感や、買い物の楽しみをもって頂けるように、お金の所持や使い方(買い物、外食など)への支援について、ご家族とも話し合いながら検討していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブなど、なるべく戸外に出かけられるよう心がけている。また、GPS機能付きの携帯電話を身につけていただき、自由に散歩へ出かける方もいる。		安全面を考慮した上で、日常的に外出ができるよう検討していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	昨年は、入居者や家族とともに、新幹線で鹿児島島へ日帰り旅行ができた。また、市の催し物の観賞もできた。		お一人お一人の行きたい場所、想いや願いが叶えられるように、ご家族とも相談し、協力を得ながら実現できるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	昨年は、暑中見舞いや年賀状を出し、ご家族の皆様喜ばれた。電話をかける時は、子機を使用し自室で会話して頂くなど、プライバシーに配慮しながら支援している。		年賀状など、毎年続けていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の制限はなく、いつでも気軽にきて頂けるよう配慮している。他の方に気兼ねされることがないように、居室やサニールームでゆっくりと過ごして頂いている。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや日々の申し送りの中で、ケアを振り返り、身体拘束になるようなケア、言葉かけをしないか点検している。		身体拘束に関する学習会を持ち、職員の共通認識を図りたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上、夜間の施錠は行っている。日中は鍵をかけず、入居者の方が外へ出ようとされている時は、すぐに止めるのではなく、さりげなく後ろをついたり、一緒について行くなどし、職員間で連携をとりながら安全面に配慮し自由な暮らしを支えている。		入居者の方が外へ出られた際、近所の方が話をしてくださっていたりと、地域の方にも支えていただいている。さらに地域との連携を強めていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜ともに職員が入居者の方を見守りやすい場所において、さりげなく全員の状況を把握するよう努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて、注意が必要な物を職員で話し合い、管理方法を決めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリ・ハット、事故報告書を記入し、職員全員での情報共有、事故の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。		日頃よりお一人お一人の状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防げるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て、普通救急救命3時観コースの講習会を年に1回、受講することを義務付けている。		必要な対応方法についてマニュアルを作成し、実際の場面に生かせるようにしたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年に2回、入居者の方と一緒に、通報、避難、消火訓練を行なっている。		運営推進会議において、御家族、近隣の方達の協力を得て、「キトさん家」緊急支援連絡網を作成。「キトさん家」で緊急事態が発生した時、地域の方達がすぐに応援に駆けつけてくれることになっている。地区の消防団長の協力も得ている。災害に備えた、備品の整備が必要。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に予測される身体的なリスクを御本人と御家族に説明している。転倒骨折のリスクが特に高い方については、同意書を取っている。又、定期、不定期に御家族とリスクについては話合う場を設定し、御家族と一緒に防止対策を協議している。		状況に応じて御家族と話し合い、安全を確保しつつ自由な暮らしが送れる様に支援したい。御家族の方との信頼関係がとても大切だと考える。その為にも、日常的に入居者の方の暮らし、状況を御家族に報告、連携して防止対策に努めようと思う。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、午前中にバイタル測定を行い、身体的な異常の早期発見に努めている。異常があれば、管理者に報告し、必要によっては、主治医に報告指示を仰ぐこととしている。臨時往診、臨時受診を判断する時もあり、ご家族にも随時、報告するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診ノートに受診の内容、Drの指示、薬の処方について記録。職員に周知するようにしている。健康管理ファイルに入居者個人の医療に関する資料を保管している。薬のカードもあり、職員は入居者の方が内服している薬について、把握することができる。		誤薬を防止する為に、予薬マニュアルを作成、マニュアルに基づいて、予薬業務を行っている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、入居者の方の排便をチェックしている。特に排泄に問題のある方については、24時間のチェック表で点検し排泄状況を把握するように努めている。便秘対策としては食事・水分摂取・運動を基本としているが、主治医と相談し、それぞれに適した緩下剤を使用している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	お一人お一人の能力に応じた援助を行っている。就寝前は義歯洗浄液に浸けているが、入居者ご本人によっては義歯を装着したまま、やすまれる方もあり、無理強いはいはしないようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の好み、アレルギーなどの有無は入居時に調査しており、ダイニングの壁にはって、調理する時の参考になっている。毎日の食事摂取量は記録表に記載しており、身体状況と食事との関係に関連づけて、考えるようにしている。		食事内容・摂取量・血液検査データ・体重等々から、入居者個人個人の健康状態を点検する必要がある。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は入居者のかただけでなく、職員も毎年受けている。感染症対策マニュアルを作成している。特に手洗い、うがいの励行に力を注いでいる。		時季的に流行が予測される感染症に対しては早期にその対策を準備するとともに、予防・対策について学習会を開くようにしたい。感染防止に関する消毒薬等の備品を常備することが必要。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品、食材の衛生管理に心がけている。まな板、布巾などは毎日、熱湯ないし、ハイター消毒を行っている。調理したものは、3時間以内に提供するようにしている。入居者の方に茶碗拭きを行ってもらっているが、必ず手洗いをお願いしている。		食材、台所備品に関する衛生管理のマニュアル作りが必要と考える。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	民家改造型のグループホームであり、玄関は昔からのそのままの状態であるため、近所の家々とけこんでいる。庭にはプランターや、物干し場があり、オープンで家庭的である。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方が好まれるリビングは、家庭で使われるような家具を配置している。食事を作るとき音や匂い、茶碗を洗う音など生活感のある暮らしを心がけている。また、お花を飾ったり、壁面には季節に合った飾り付けをしている。日差しをカーテンで調節したり、テレビの音量もそのときの状況で調節している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やサンルーム、玄関先にイス等を置き、くつろげるスペースをつくっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた家具や寝具類を持ってきていただいている。写真や仏壇など、その方の馴染みの物などで居心地の良い部屋作りをしている。		その人らしく過ごせる部屋になるように、ご本人やご家族と一緒に工夫していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	起床後や、掃除の時は窓を開け換気を行っている。お一人お一人の健康状態に留意し、こまめに調節している。温度、湿度も室温計や入居者の様子をみながら調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態にあわせて、手すりや浴室、居室、トイレ等居住環境が適しているかそのつど見直している。安全に配慮し、自立した生活が送れるように配慮している。		定期的に環境の見直しをしていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱の原因となった環境や物品に対しては、すぐに対処している。夜間トイレの場所が分からない方へは、その方が見える所へ目印をしたりなど、その方の状況にあわせ、環境整備に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にベンチを置き、涼んだり日向ぼっこができるようにしている。また、プランターに花を一緒に植えたり、裏の畑に野菜を作るスペースを確保している。		裏庭へ野菜や花を植えて、入居者の方が日常的に楽しみながら生活できるようにしていきたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に隣接したグループホームであり、キトさんが約70年住まれていた家であるため、地域の人との結びつきは深い。地域の人に支えられたグループホームである。開放的でご家族を始め、ご近所の方が気さくに声を掛け、立ち寄りいただける雰囲気を持っていると思う。入居者の方も明るく、言いたいことを言い、それぞれ思うままに暮らしておられる。屋外に出たい方へは、GPS機能の携帯電話を装着していただき、所在確認のもと、近所への散歩、空き地の草むしりなど、入居者の方が安全で自由に暮らしていけるようサポートしている。身体的に全面介助、重度のレベルの方に対しても寝たきりにせず、日中は離床、車椅子もできるだけ使用せず、Sfの支えによる歩行、トイレでの排泄等を日課としている。そのことが健康を維持し、生活の質を向上させ情緒面においても変化がみられた。日々、表情が豊かになり、言葉数が増えている。